

第3回マリンバイオテクノロジー学会若手の会討論会（合宿型）

開催日：8月31日（木） - 9月1日（金）

会場：昭和の森フォレストヴィレッジ、千葉市、千葉県 (<https://forestvillage.jp>)

企画責任者：モリ テツシ（東京農工大学）

8月31日-9月1日に1泊2日の日程で第3回マリンバイオテクノロジー学会若手の会の討論会（合宿型）を昭和の森フォレストヴィレッジにおいて開催した。本討論会は新型コロナウイルスの影響により開催を停止したが、活動制限の解除に伴い4年ぶりの開催を実現した。4大学（東京農工大学、関東大学院大学、日本大学、東京海洋大学）から約30名の教員および学生が参加した。第2回討論会と同様、1日目は、研究グループ毎に分け、教員は各研究グループの概要、そして学生は自分自身の研究について発表が行われ、夕方に交流会を行った。2日目の午前中には、学生の主催企画として、テニスが行われた。

本討論会は4年ぶりの開催であるため、少人数の参加と見込んでいたが、今年度は第2回討論会を上回る参加人数となった。また、参加された学生の学年の幅も広く、学部3年から博士後期課程までの学生の参加が確認できた。そして、今年度は留学生の参加もあって、英語での活発な議論も行われた。多人数の学会大会では、英語で学生からの質問を受けことはまれではあるが、本討論会では恥ずかしながらも、学生達が積極的に英語に挑戦する姿も見られ、とっても感心した。交流会では学生同士だけではなく、学生と教員の交流も行われ、とっても有意義な時間を過ごせたと感じた。さらに、本討論会を通して、本学会の若手教員の交流場としても設けられ、本年度は1名の若手の教員が初めて参加していただいた。

本討論会の主旨は、「学生が他大の学生と交流できるまたは進学を考える場」そして「本学会の若手研究者の増員、さらには新たな共同研究を誘発して学会活動を活性化できる場」として考えられ、4年ぶりの開催といえども、その必要性和重要性を改めて確認することができた。従って、今後も本学会の一つの重要なイベントとして定着していきたいと考える。

以上。